

## 藻場

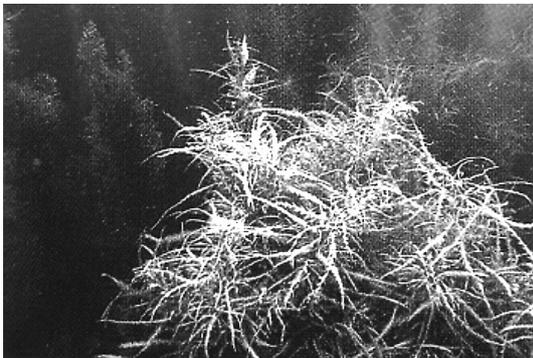
### 藻場とは<sup>1)</sup>

沿岸浅海域の太陽光が届きうる深度においては、岩礁域に大型の海藻がジャングルのように繁茂している場所や内湾の砂泥域にアマモ類の海草が濃密に生育している場所があります。このような群落を藻場と呼んでいます。

岩礁性藻場は、ホンダワラ類を主体としたガラモ場、コンブ類を主体としたコンブ場、アラメ・カジメを主体とした海中林藻場とに、構成している主要な海藻の種類によって分類されます。一方、砂泥性藻場では、アマモ類を主体としたアマモ場と南西諸島に生育する熱帯性アマモ類を主体とした熱帯性海草藻場に分類されます。



アマモ場



ガラモ場 写真：「ブルーカーボン」(地人書館)

### 藻場の形成場所<sup>1)</sup>

南北に長い海岸線を持つ日本の沿岸では、東北地方から北海道、本州中西部沿岸から四国・九州、南西諸島で藻場の形成状況が大きく異なります。東北地方から北海道沿岸での藻場は、コンブ場が単一種で形成される場合が多く、一部内湾域でガラモ場やアマモ場も形成される場合があります。本州中西部から四国・九州沿岸では、内湾の砂泥地にアマモ場、岩礁域にガラモ場、海中林藻場が形成されます。南西諸島では、大部分が砂泥域に熱帯性海草藻場が形成され、一部岩礁にガラモ場が形成されます。

### 藻場の機能<sup>2)</sup>

トビウオ等の魚類やイカ類の中には、藻場を構成する海藻草類を産卵場所として利用するものがあり、海藻草類が卵の付着基盤として機能するのみならず、海藻草類により海水の流れが制御されるため、孵化した幼稚仔の保育場としての役割も有しています。また、海藻類自体がアワビ、サザエ等の植食動物の餌となったり、藻場に繁殖する小動物がメバル、アイナメ等の餌となったりするなど、海水中の生物への餌供給機能も有しています。

さらに、海藻草類は富栄養化物質である窒素やリンを吸収して水質を浄化したり、光合成により二酸化炭素を吸収して酸素を放出することで海水中の溶存酸素を増加させるとともに、二酸化炭素の固定にも貢献しています。

### 藻場の新たな価値

アマモ等の海洋生態系により蓄積される炭素、いわゆるブルーカーボンは、2009年の国連環境計画の報告書において命名され、地球温暖化対策の新しい可能性として世界的に注目されています。

国土交通省港湾局では、ブルーカーボンに関する課題を明らかにしつつ、藻場等の拡大に向けた持続的な取り組みを行うための枠組みの構築を図るため、平成28年度に設立された「ブルーカーボン研究会」にオブザーバーとして参画しておりますが、本研究会とも連携し、積極的に取り組みを進めてまいります。



藻場に産み付けられたイカの卵  
写真：広島港湾・空港整備事務所HPより引用

### 【参考文献】

- 1) 海の自然再生ワーキンググループ (2003)：海の自然再生ハンドブッカーその計画・技術・実践-第3巻 藻場編、ぎょうせい
- 2) 海の自然再生ワーキンググループ (2007)：順応的管理による海辺の自然再生